頑張れ! ルーキー rookie FIGHT!! ⑦

DOVOC

平成20年度第14回土木部技術職員等研究発表会 最優秀賞受賞

長崎振興局　建設部 岡本征大（ゆき ひろ）

国指定史跡・原の辻遺跡区域内に架かる「津合橋」、弥生時代の景観との調和をめざした改良工事。

玄界灘に浮かぶ壱岐島は、対馬とともに古くから中国大陸や朝鮮半島と日本を結ぶ交流の拠点として重要な役割を果たしてきました。それを物語る「原の辻遺跡」は、魏志倭人伝の中の「一支国」の王都と特定され、現在も国指定特別史跡として発掘調査が行われています。平成20年度第14回土木部技術職員等研究発表会で最優秀賞を受賞した、岡本技師（H20年度壱岐地方局勤務）の論文「原の辻遺跡内における津合橋の修景検討について」は、景観との調和のために工夫した工事について書かれています。岡本技師に話を聞きました。

「現在、原の辻遺跡復元のため、長崎県と壱岐市により原の辻遺跡復元整備事業が行われています。遺跡区域内にある津合橋も、弥生時代の景観との調和を図る必要があるということから、修景の検討を始めました。計画にあたっては、長崎県、壱岐市、長崎県教育庁および学識経験者で検討会議を開催して協議を行ったほか、美しいまちづくりアドバイザー制度を利用して、専門家の先生からご指導・助言を頂きました。

今回の改良工事で最も検討に時間を要したのはデザインでした。現代的な印象を抑え、かつ土木建築物としてのボリュームや力強さなどの威圧感を抑えられているもの、そして弥生時代の原風景と調和したもの、という3点を評価基準のポイントとしてあげ、それを実現できる素材や工法を選んでいきました。その際にはもちろんコスト面や耐久性なども重要な判断基準になります。検討にあたっては難しく大変なこともありましたが、やりがいのある仕事でした」と当時を振り返る岡本技師。

いろんな修景方法が検討された結果、橋上の歩道は土色のカラー舗装で擬石縁石、高欄は前後の防護柵に合わせてダークブラウンとし、側面の桁には材料も仕入れやすくコスト的にも納得できる角材ルーバー案が採用されました。

今春からは長崎振興局建設部勤務となりました。これからも長崎県の土木行政のために頑張ってください！

角材のルーバーによる津合橋修完成予想図

施行前